

日本原子力学会 第 145 回倫理委員会  
議事録

1. 日 時：2024 年 8 月 1 日（木）13:30～16:00
2. 場 所：原子力学会事務局会議室+Zoom（ハイブリッド） ※：Zoom 参加
3. 出席者：大場委員長<sup>\*</sup>，手柴副委員長，神谷幹事<sup>\*</sup>，伊藤(公)委員，大久保委員，沖田委員，  
後藤委員，中野委員，中村委員<sup>\*</sup>，福家委員  
(委員 14 名中 10 名出席)  
小林特別委員<sup>\*</sup>，佐藤特別委員<sup>\*</sup>  
オブザーバー 芝原氏

4. 資 料：

- 倫 145-1-1 前回議事録（案）
- 倫 145-1-2 倫理委員会 委員の承認について
- 倫 145-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 145-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 145-3 2024 年秋の大会企画セッションに係る企画・準備について
- 倫 145-4 2025 年春の大会（オンライン）企画（委員会）セッションの企画・準備（案）
- 倫 145-5-1 次回倫理規程改定に向けた検討について（案）
- 倫 145-5-2 類似箇所の統合検討
- 倫 145-5-3 倫理規程改定検討比較表
- 倫 145-6-1 技術倫理協議会の活動報告
- 倫 145-6-2 学会誌への連載企画検討依頼について

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 145-1-1 に基づき説明があり、一部誤記の修正をすることで了承された。

(2) 委員候補の承認について

大場委員長から、資料 145-1-2 に基づき、日立製作所 芝原啓介氏から本委員会委員への立候補があった旨の説明があり、立候補届出に基づき、専門分野、立候補理由について確認をした。その後、決を採り、出席者全員が了承し、委員会として芝原氏の委員就任について了承した。今後、理事会での承認に向けて、幹事が諸手続きを進めていくこととした。

(3) 活動計画および役割分担について

手柴副委員長から資料 145-2-1、145-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。  
・大場委員長から、YGN とのタイアップ活動に関して、実施時期等について事前に委員会内で実施したアンケート結果の状況も含めて紹介があった。YGN の意向も踏まえて、9 月下旬以降の秋口に、対面で、テーマは核セキュリティに関わる ID カード不適切使用事案を倫理の観点からグループ討議をする形式で調整していくこととした。具体的には今後調整していくことに

なるが、本委員会の活動紹介、ID カード不適切使用事案の倫理の観点からの論点を提示した後、グループ討議に進んでいくイメージ。本委員会としては倫理研究会の位置づけで実施することとして、主担当：神谷幹事、副担当：大場委員長として、準備を進めていくこととした。

- ・2025 年秋の大会企画セッション以降の役割分担について、手柴副委員長が案を作成し、次回委員会前に各委員と調整していくこととした。

#### (4) 2024 年秋の大会企画セッションについて

福家委員から資料 145-3 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・日程は 9 月 13 日で決定（13:00～14:30、東北大学川内北キャンパス、J 会場（講義棟 B 棟 1F B104））。
- ・講師の予稿を踏まえて、「見どころ」を作成していく。
- ・学会との調整結果を踏まえて、講師に謝金を支払うこととした。
- ・本日の資料を更新し、当日の役割分担を明確にすることとした。
- ・アンケートは、前回同様、会場紙配布と QR コードからの入力との併用とする。現案の Q2 は設問が二つあり、記入し忘れの原因となっている可能性があるため、Q2 と Q3 に分割する。

#### (5) 2025 年春の年会企画セッションについて

中村委員から資料 145-4 に基づき説明があり、企画セッションの内容について、メールベースでの議論も含めて、引き続き検討を進めていくこととした。

- ・現状四つのテーマ案があるが、出町委員が主担当になると想定される 2025 年秋の大会で何を実施するかも念頭に検討を進めた方がよい。
- ・核セキュリティに関して、携帯電話の持ち込み事案などが生じているが、誰も悪いことをしようと思っているわけではなく、悪気のない人の行動と核セキュリティ文化の関連などを議論できれば意義があると思う。
- ・一方、核物質防護は、善意の人はいないという前提での業務になっているので、文化の議論をしても実業務にフィードバックすることが難しいという点がある。
- ・倫理委員会は会員に広くメリットを提供できる活動が求められる等の意見が学会内にはあり、そのような観点からテーマを考えられないか。
- ・企画セッションは、年会・大会に参加された方が気軽に参加して、倫理に関わる問題を広く知ってもらうような趣旨、一方、倫理研究会は、倫理や品質保証に携わっている方が深く議論できる場として企画してきている。そのような位置づけ・認識は、今後も継続してよいのではないか。したがって、年会・大会の企画セッションは、会員が聞きたいであろうことを意識して、本委員会や担当の方が講師から聞いてみたいことでテーマを設定すればよいと思う。
- ・現状四つのテーマ案があるが、主担当と副担当でやりたい案を膨らませて、案を絞ってメールベースの議論を進めていくことがよいのではないか。

#### (6) 次回倫理規程改定に向けた検討について

神谷幹事から資料 145-5-1～145-5-3 に基づき説明があった。資料 145-5-2 の「類似箇所の統合

検討」については、今回の検討案に基づいていくこととし、今後は資料 145-5-3 の中で、全体を俯瞰した検討に進んでいくこととした。資料 145-5-3 については、次回委員会に向けて引き続きメールベースでの検討をしていくこととし、委員会終了後に神谷幹事からあらためて依頼をすることとした。

(7) その他

- ・技術倫理協議会の活動状況について、中野委員から資料 145-6-1 に基づきに説明があった。現在、次回シンポジウムのテーマについて議論をしているとのこと。
- ・編集委員会からの学会誌への連載企画の検討依頼について、神谷幹事から資料 145-6-2 に基づき説明があった。倫理委員会としては、20 年企画の際に 1 年間の連載企画を実施したが、各部会のように個別分野の研究を委員がしているわけではないので、今回の連載企画に対応するのは難しいと判断する。学会誌への投稿は、従来通り個別の案件が発生した際に、編集委員会に希望していくこととした。

6. 次 回：9 月下旬～10 月上旬頃に開催することとし、日程については別途調整することとした。

以上